

襖紙、来年3月から15%アップ

引手も15~20%アップへ

襖完成品 需要減で価格転嫁に苦慮 メーカー

襖紙ブランドメーカー各社は来年三月出荷分から平均一五%値上げする。多くのメーカーが平成十七年春以来の値上げとなる。すでに全国の内装材料二次店に通知を出し、近く改正価格も通知することになっている。石油化学製品、原材料、副資材、物流費、原紙などの値上がりを理由に挙げている。襖関連資材としては引手も値上げが決まっております。ナガノ（大阪）は一月七日出荷分から木製引手を平均一五%値上げする。また、ツキエス印の坂本金属工業所（奈良）も三月頃から平均二〇%程度の値上げを予定している。さらに古紙の値上がりでチップボール紙が値上がりしている襖下地メーカーも、和歌山のメーカーが四月からの値上げを予定しているほかは、具体化までには至っていないが、販売数量減が続くなかでの材料費アップだけで、年明け早々にも値上げを打



発行所
住宅資材新聞社
東京都港区芝2丁目2番12号
ローヤルマンション金杉 〒105-0041
☎03(3455)3081 FAX03(3455)3082
発行日 毎月5日、15日、25日
購読料 年間15,750円 半年8,300円
振替口座 00120-4-133846番

ち出すメーカーも出る可能性はある。
襖の年間出荷額は昭和五十四年（一九七九年）から平成六年（一九九四年）までの十六年間は一千億円台を維持、安定した需要にめぐまれていた。とくに平成二年（一九九〇年）は、新設住宅着工戸数が百六十七万戸もあったことから、一千五百億円台を記録したと推測されているが、その後は和室の減少、クローゼット等の競合品の普及もあり、近年では四百億円台がやっとという厳しい状況下にある。平成二年比だと実に七〇%減という大幅減となっていることから、合理化の余地はほとんどなく、原材料が上がれば即製品に転嫁せざるを得ないのが現状となっている。
襖紙ブランドメーカーが値上がりした資材として、製紙関係では古紙、パルプ、薬品（苛性など）、襖地の関係ではスフ系、裏打ち紙との接着用糊、絵柄加工では加飾用顔料インキ、シンナー等の溶剤を挙げている。

前回の値上げの主な理由は数量減（業界調査で襖紙の生産量が平成八年比平成十四年は五七・三%減）に伴うもので、全襖紙ブランドメーカーの足並みがそろったわけではなかったが、今回は原材料の値上がりを受けての値上げで、全襖紙ブランドメーカーとも値上げの実施を表明していることから、値上がりは間違いないものと思われる。
今年六月、審査を厳格化した改正建築基準法が施行され、大幅な着工減を引き起こし、その結果来年は襖に限らず住宅関連資材の市場は大幅に縮小すると予想されているだけに、襖完成品メーカー、とくに量産メーカーは資材の値上がり分を製品価格に転嫁しにくく、各社とも苦慮することとは避けられない。

平成 19 年 12 月 15 日 住宅資材新聞 第 1839 号より抜粋



ビドーニュース 2008年1月号 発行：株式会社 ナガノ
大阪市東成区大今里西 1-25-4 TEL: (06)6972-3824(代)
メール: info@bidoor.co.jp WEB: <http://www.bidoor.co.jp/>

